

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥取県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	米子市立啓成小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	2	2	2	1	4	18
児童数	44	64	56	61	53	60	1	339	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、自ら考え、共に高め合う子どもの育成 ~ 個に応じた算数科の学習を通して ~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科	全校的に算数科の学力検査での不振が見られ、それらの改善に向けて全校体制で取り組むため。
---------	---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 研究主題に同じ 研究の見通し(仮説) 《仮説1》 児童の実態を適切に把握し、TTや弾力的な少人数指導など学習形態の工夫を行えば、個に応じた適切な評価や支援ができ、基礎・基本の確実な定着を図ることができるとともに、一人一人に満足感や成就感を味わわせることができるであろう。 《仮説2》 問題解決の指導を充実したものにすれば、一人一人がより確かな見通しを持ち、筋道立てて考える力が育ち、進んで生活に生かそうとする態度が育つであろう。 《仮説3》 感覚を豊かにする学習環境の整備を行い、作業的・体験的活動などの算数的活動を効果的に取り入れた学習を展開すれば、活動の楽しさや数理的処理のよさが感じられ、一人一人が意欲をもって生き生きと学習に取り組むであろう。 研究の内容・方法 指導計画の工夫・改善を行う。 評価と指導を一体化した年間指導計画の作成を行う。 観点別評価規準・評価基準を作成する。 問題解決力の育成、伸長を図る。 問題解決力を育てる学習過程の構築を行う。 学び方を定着させ、主体的な学習態度を育てる。 個に応じた指導の工夫を行う。 少人数指導やTTなど学習形態を工夫し、よく分かる楽しい学習にする。 算数的活動など一人一人の学びに合わせた学習展開を工夫する。 チャレンジタイム・のびようタイムなどを活用し、基礎的基本的な事項の
--------	---

	<p>定着を図る。</p> <p>児童の実態を把握し，より効果的な指導のあり方を追求する。</p> <p>学習環境の整備を行う。</p> <p>同学年間の交流を図り，少人数指導やT Tをより円滑に運営できるようにする。</p> <p>校舎内外の環境整備を図る。</p>
--	--

平成15年度	<p>テーマ 研究の見通し 研究の見通し 平成14年度に同じ。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>指導計画の工夫・改善を行う。</p> <p>発展的な学習や補充的な学習の計画・実践を行う。</p> <p>練り上げの効果的な進め方を研究する。</p> <p>学力検査や意識調査を生かした指導計画を工夫する。</p> <p>問題解決力の育成，伸長を図る。</p> <p>問題解決力を育てる学習過程の改善を図る。</p> <p>学び方を定着させ，主体的な学習態度を他教科・領域に広げる。</p> <p>個に応じた指導の工夫を行う。</p> <p>少人数指導のグループ編成やT Tの効果的な取り入れ方を工夫する。</p> <p>目標を達成するための算数的活動の工夫を行う。</p> <p>児童一人一人の基礎的基本的な事項の定着状況に合わせた指導を行う。</p> <p>学習環境の整備を行う。</p> <p>同学年間の交流を図り，少人数指導やT Tをより円滑に運営できるようにする。</p> <p>学年経営，学級経営を充実させる。</p> <p>保護者，地域への啓発活動に努める。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 研究の見通し 研究の見通し 平成14年度に同じ。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>指導計画の工夫・改善を行う。</p> <p>発展的な学習や補充的な学習を位置づけた年間指導計画の作成を行う。</p> <p>練り上げの構造化を図る。</p> <p>学力検査や意識調査を生かした指導計画を工夫する。</p> <p>問題解決力の育成，伸長を図る。</p> <p>学び方を定着させ，主体的な学習態度を他教科・領域へ広げる。</p> <p>個に応じた指導の工夫を行う。 平成15年度に同じ。</p> <p>学習環境の整備を行う。 平成15年度に同じ。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

全体研究会，研究推進委員会

学年部...低学年部，中学年部，高学年部

研究部...授業研究部，環境研究部

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 発展的な学習に取り組むことで、教師の題材観に広がりが見られるようになり、指導の充実を図ることができた。
- ・ 各学年が発展的な学習の指導計画を様々に工夫することで、児童の学習状況や単元の特性に応じた方法を選択できるようになった。
- ・ 指導のポイントを明確にした補充的な学習に取り組むことで、基礎基本を定着させることができた。
- ・ 自力解決場面と練り上げ場面の支援に変化をもたせることで、児童により有効な支援を考えることができるようになった。また、発問の吟味も進み、本時目標達成へ向けて児童の思考を深めることができるようになった。
- ・ TTを行う際のそれぞれの役割について広がりが見られるようになり、児童にとって有効な支援ができるようになった。
- ・ 算数的な活動を取り入れることで、自力解決ができやすくなったり、練り上げでこれらを活用して説明する姿が多く見られるようになったりし、学習に意欲的に取り組めるようになった。
- ・ 自力解決でのつまずきや解決方法の傾向を評価規準に照らし合わせて予想し、それらに対する支援を事前に準備しておくことで、的確な評価や支援が可能になった。
- ・ TTや少人数指導を児童の実態に合わせ実施したことで、個に応じた評価や支援を行うことができるようになり、算数が好きな児童が年々増加し、現在85%となっている。また、算数が楽しいと答えた児童も90%となっている。さらに、高学年では少人数指導が好きと答えた児童が95%に達している。
- ・ 診断テストの結果では、13年度と14年度のテストを実施している3～6学年の4学年のうち、3学年で前年度を上回る結果が出ている。
- ・ 算数科への意欲や関心を高めるための環境作りを行ったことで、数や量に進んで関わろうとする児童が増えた。

2. 今後の課題

- ・ 評価規準をより明確にし、指導の焦点化を図ること。
- ・ 練り上げ場面でより思考を深めるための発問の工夫を行うこと。
- ・ 発展的な学習や補充的な学習として取り扱う教材の精選を行うこと。
- ・ 発展的な学習を1単位時間の中に取り入れる工夫をすること。
- ・ 共に高め合う学習を推進するための場の設定や人間関係を充実させること。
- ・ 問題解決力の育成や個に応じた学習をより充実させるために、本研究の成果を他教科・領域などへ発展させていくこと。
- ・ 児童が主体的に学習を進めていくための、表現力の育成を図ること。
- ・ グループ編成の意図や視点を見直し、より効果的な少人数指導のあり方を探ること。

学力等把握のための学校としての取組

【算数に対する意識調査】

目的 児童が算数科の学習や少人数指導などの取り組みについてどのように感

じているのかを把握し，指導方法の改善に生かす。

内容

- 1 算数は好きですか。 それはなぜですか。
- 2 算数の時間は楽しいですか。 それはなぜですか。
- 3 グループに分かれて学習するのは好きですか。 それはなぜですか。

実施時期 7月 2月

【鳥取県算数診断テスト】

目的 鳥取県算数診断テストの結果を分析することで 指導のあり方を見直す。

内容

該当学年 1，2 学期及び前学年 3 学期の指導内容に関わる問題を 40 問出題。

実施時期 2月上旬

【C R T 標準学力調査】

目的

本校児童の算数科の学習内容の定着度を測るために，全国規模の標準学力検査を実施し，指導のあり方を探る。

内容 該当学年 1，2 学期の指導内容に関わる問題。

実施時期 1月下旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1．研究発表会として

日時 平成 15 年 11 月 7 日（金）

場所 米子市立啓成小学校

テーマ 自ら学び，自ら考え，共に高め合う子どもの育成
～ 個に応じた算数科の学習を通して～

対象 鳥取県西部地区小学校，県内フロンティアスクール，近隣の中学校など
研究物 研究紀要と指導案集を参加者に配布し，本研究の概要を理解して頂いた。

2．啓発活動として

保護者や地域の方々に算数科をはじめ，本校の教育方針や状況について広く理解して頂くために，フリータイム参観日（3 回のべ 9 日），参観日（6 回）を行い，学校・学年・学級だよりを配布している。

少人数通信を発行し，保護者へ学校の方針や指導状況，児童の感想などを知らせた。

3．他校からの反響

研究会へ約 100 名の参加者があった。

参加者からさらに研究物をほしいという依頼があった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 ■ 14 年度からの継続校

【学校規模】 ■ 13～18 学級

【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・T による指導

【研究教科】 ■ 算数

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有